

八雲立つ日本・出雲から陽が昇る

我が反骨人生 人生・祖国・時代 野田 一夫 先生



一般財団法人 日本総合研究所名誉会長
一般財団法人 社会開発研究センター名誉会長
多摩大学名誉学長、県立宮城大学初代学長
事業構想大学院大学名誉学長

1927 年生まれ。

1952 年東京大学社会学科卒業（産業社会学）。

52 ～ 55 年同大学大学院特別研究生（企業経営論）。55 年立教大学赴任し、助教授を経て 65 年教授。この間 60 ～ 62 年マサチューセッツ工科大学ポストドクトラルフェロー（企業経営の国際比較）、65 年～ 89 年立教大学教授。この間 67 年同大学観光学科開設にあたり初代学科長（70 年まで）、同 70 年（財）日本総合研究所設立にあたり茅誠司理事長のもとで理事・初代所長、同 75 年ハーバード大学東アジア研究所フェロー、同 81 年（財）日本総合研究所理事長（2010 年まで）、同 85 年（社）ニュービジネス協議会設立にあたり初代理事長（87 年まで）。89 年多摩大学設立にあたり初代学長（95 年まで）。93 年（社）日本マネジメントスクール会長。97 年（県立）宮城大学設立にあたり初代学長（01 年まで）。

現在、多摩大学名誉学長、（財）日本総合研究所名誉会長、（社）日本マネジメントスクール会長、（社）全国経営者団体連合会会長など。

著 書

1958 年 現代の経営（自由国民社、ピータードラッカー著の翻訳）、1960 年 日本の重役（ダイヤモンド社）、1963 年 戦後日本の経済成長（岩波書店、共著、日経経済図書文化賞受賞）、1964 年 創造する経営者（ダイヤモンド社、ピータードラッカー著の翻訳）、1965 年 戦後経営史（日本生産性本部）、1966 年 日本会社史（文藝春秋社）、1966 年 明日の経営（鹿島研究所出版会）、1967 年 財閥（中央公論社）、1968 年 松下幸之助 - その人と事業（実業之日本社）、1969 年 現代経営史（日本生産性本部）、1976 年 企業と社会（丸善）、1985 年 オフィスの新時代（講談社インターナショナル）、1986 年 E・ヴォーゲルと語る日本企業の生命線（PHP 研究所）、1989 年 創業の思想（清水弘文堂）、1991 年 大学を創る（紀伊国屋書店）、1999 年 私の大学改革（産能大出版部）、時の運、1999 年 人の縁（浩気社）、2000 年 大学の崩壊（I N 通信社）、2002 年 未来を創る力『ものづくり』のすすめ（講談社 共著）、2003 年 「今、日本の大学をどうするか」（自由国民社 共著）、2012 年 悔しかったら、歳を取れ！（幻冬舎ゲーテビジネス新書）

島根原子力発電所国際プロジェクト構想から

真の地方創生時代が始まる！

4/8

開催日

入場料
無 料

土曜日

時間

14:00 ～ 18:00

場所

小松電機産業 3 連ワイド映像
太陽ホール
島根県松江市乃木福富町 735-188 湖南テクノパーク

参加申し込み メール (staff@komatsuelec.co.jp) もしくは FAX (050-3161-3846) まで、ご返信願います。

氏名	住所又は団体名	電話番号	メールアドレス

共催  小松電機産業株式会社 人間自然科学研究所 協賛 太陽の会 和の文化研究会準備委員会

は、プロジェクトに賛成します



人類は火と言葉と分業で「進歩」。火は火薬・ダイナマイト・核に、言葉は文字・印刷・スマートフォン更には人工知能そして国際分業が機能しなければ生きられない時代になりました。

100 年前「オープンマインド」の小泉八雲によって初めて欧米に紹介され、史跡・温泉に恵まれた日本文化発祥の地、東洋のベニスとも称され松江は特別な地域です。島根県は、田部・伊達知事時代に 850 億円の巨費を投じ、深刻な環境破壊を起こし中止になった中海干拓に続いて、例のない原発誘致特別条例を定め、原子力発電所を建設歴代の知事・市長も諸般の事情から容認してきました。

世界でも例を見ない、原発 10 キロ圏内に重要施設（防災センター・県庁・市役所・日赤・市民病院等）が集積避難区域に指定された 30 キロ圏の汽水湖中海・宍道湖周辺人口は 46 万人。



1974 年に島根原発は、「日本の火の発祥の神社」として知られる、八雲町の出雲国一の宮・熊野大社の鑽火で稼働を始めました。事故解決の目処の立っていない福島第一原発（米国製）と同型で、2015 年に廃炉が決まった 1 号機（138 万 kW 沸騰水型国産第 1 号）再稼働予定の同型 2 号機（244 万 kW）未使用の 3 号機（393 万 kW 日本最大

最新鋭改良沸騰水型）で構成されており、原発の歴史の中で特別な役割を担う時が来ています。原子力規制委員会では、島根原発を現場教育、廃炉技術研究に活かす意見も出ているようです。ドイツのテーマパーク「ワンダーランド・カルカー」は、未使用原発をアミューズメント施設に転用しています。世界を見渡せば、434 か所の原子力発電所が稼働・建設中です。

国際文化観光都市に指定されている松江市八雲町から世界に広がった人間自然科学研究所の 25 年にわたる平和活動と 2015 年『島根核発電所—原発その光と影』出版の反響を受け、難しい状況になっているユーラシア大陸の東端、朝鮮半島対岸の島国・日本「八雲立つ出雲」から共生の文化を拓く「原子力発電所国際プロジェクト構想」を提言します。志の高い人・資金・技術が集まり、人々の意識が「日本の縁結びの地から世界の縁結びの地」に変わり、真の地方創生時代が始まります。

高レベル放射性廃棄物の発生が極めて少なく、飛躍的な安全性が望める、次世代トリウム発電炉研究への道が開かれることも期待できます。

原発は 40 年経過すると廃炉という難しい問題に直面しますが、平和・環境・健康の本質を追求する過程で生まれたこの構想が具現化すれば、住民を悩ます島根原発が、「極東の島国で始まった対立から共生への文化移行特別世界遺産」として悠久の歴史に刻まれます。